

## MACF 礼拝説教要旨

2022年6月5日

「聖霊が降った！」

### 使徒言行録2章

2:1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、

2:2 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。

2:3 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。

2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

#### 1) 約束の聖霊が降った

イエス様は弟子たちにご自分が天にお帰りになったあと、聖霊が降り、彼らを満たすことを教えておられました。

聖霊とは、ヨハネによる福音書では「もうひとりの助け主」と呼ばれ「真理の御霊」と呼ばれ、イエス様の心をそのまま私たちにわからせてくださる存在として教えられています。

さらに使徒言行録の前半の文章と考えられているルカによる福音書の最後の部分にイエス様の約束が語られています。

#### ルカによる福音書 24章

24:49 わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

24:50 イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。

24:51 そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。

24:52 彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、

24:53 絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

そして

### 使徒言行録1章にも

1:8 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

と書かれています。

その聖霊がまさに降ったのです。

#### 2) 弟子たちの上に聖霊が

弟子たちは聖霊によって他国の言語で神のみわざを語り始めます。

#### 使徒言行録2章

2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

2:5 さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、

2:6 この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。

2:7 人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。」

2:8 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。

2:9 わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、

2:10 フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、

2:11 ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

つまり、神の恵みの福音は「どこの国の人にも、届けられるべき」あるいは「自覚されるべき福音だ」ということです。

まさに「普遍的な」「すべての人」へのメッセージなのです。

ユダヤから世界に向けての発信など、それまで、あまり考えられなかったと思います。

ユダヤ教は、ある意味、ユダヤ至上主義的な面がありますし。

でも、聖霊が降って、使徒たちが気付かされたのは、この出来事から始まる新しいメッセージは全世界向けの神様からのメッセージだということです。

最初はたどたどしいものですが、やがて、ユダヤ教からの迫害などがあり、各地に散らされながら彼らはメッセージを伝え、それを生きたのです。

### 3) メッセージの中心は

2:36 だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。

あの十字架につけられたイエスこそ、神の定めた「救い主」だということです。

そしてその最大の証拠は「復活」とこの度の「聖霊降臨」です。

別の言い方をすると「みんなに殺されたようなあのイエスは死を打ち破り、聖霊を送られることで、今、世界のどこの国の人たちの中にも救いをもたらすお方、救い主として神が承認してくださったのだ」というのが主題です。

あなたの状況の中に救い主イエス様は聖霊を通して語り、導き、共にいて、希望を与えてくださるお方なのだということです。

そして、聖霊が降ったからこそ、すべての人は救いを知ることができ、希望を持つことができるのだとペトロは語ったのです。

弟子たちはそのメッセージを語り、そのメッセージを生きながら明らかにしていくための力を聖霊によって与えられました。

彼らは無学な人たちであり、取り柄はイエス様と一緒に数年間を過ごしたということだけでした。彼らはイエス様の言葉を聞き、その他者に寄り添う生活姿勢を見ながら過ごし、今からは自らが、その役割を担うべく聖霊が注がれたのです。

### 4) 聖霊はあなたの心にも

実は、この出来事から、私たちがみことばを聞き、それを理解し、イエス様に従って生きていこうという意欲を心に与えてくださるのは聖霊の助けによるということがわかります。

それまで、弟子たちには力も勇気もありませんでした。でも聖霊を注がれてから、彼らの生き方が変わりました。

パウロはこう教えています。エフェソの信徒への手紙の中にある言葉です。

1:13 あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。

1:14 この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。

復活され、今も人の心に、生活に希望を与えることがおできになる救い主は聖霊が降ったことで預言が成就し、私たちはこの人生の中にその祝福を受け取ることができる。

そして、その聖霊は信じるものたちの心に住み、その人々を内側から生命の泉で満たすお方として、常に共にいてくださいます。さらに言えば、聖霊が心に与えられたらその聖霊は救い主を私たちにしっかりと思いお起こさせてくださるのでイエス様が共にいてくださることを悟らせてくださいます。

「いのちの主がともに、おられる」

そこにこそ、希望があります。

そして、更に言ってしまえば、

聖霊を受けたわたしたちはひとりひとりの身体、また存在は「神の聖なる神殿」なのだと言書は教えるのです。

コリントの信徒への手紙第一 6章 19～20 節

6:19 知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。6:20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

つまり、ひとりひとりが「神の宮としての性質、役割」を担っているのです。それは礼拝であり、神の臨在を明らかにしながら生きるということです。

そのためにこそ、聖霊は降ったのです。

あなたは、ある人達に対しては「イエス様の代理」の役割を果たすことになるでしょうし、誰がいなくても神がおられることを信じて礼拝を捧げることができるでしょう。あなたの存在自体が「神の臨在」を表明するような生き方ができるのです。

あなたの言葉、態度の背後に神様の愛や麗しさが表明されているのです。

なんと麗しい生き方でしょうか。

ますます

祝福がありますように。

\*\*\*

いのり：

聖霊よ、来てください。あなたの光の輝きで、わたしたちを照らしてください。

貧しい人の父、心の光、証の力を注ぐ方。  
やさしい心の友、さわやかな慰み、ゆるぐことの無いよりどころ。

苦しむ時の励まし、暑さの安らい、憂いの時の慰め。恵み溢れる光、信じる者の心を満たす光よ。

あなたの助けがなければ、すべてははかなく消えてゆき、だれも清く生きてはゆけない。

汚れたものを清め、すさみをうるおし、受けた痛手をいやす方。固い心を和らげ、冷たさを温め、乱れた心を正す方。

あなたのことばを信じてより頼む者に、尊い力を授ける方。あなたはわたしの支え、恵みの力で、救いの道を歩み続け、  
終わりなく喜ぶことができますように。

アーメン。

\*\*\*\*\*

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/mkpwA11AEZI>